

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792200034		
法人名	医療法人 ライフケア読谷		
事業所名	ライフケアホーム読谷		
所在地	沖縄県中頭郡読谷村字長浜1530番地の1		
自己評価作成日	令和5年 11月 20日	評価結果市町村受理日	令和6年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4792200034-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和5年 12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は法人内にクリニック、通所介護や小規模多機能型居宅介護といったその他の介護サービスが同敷地内に併設されている為、医療ニーズの高い方や状態の変化等で介護サービスの変更が必要となった方でも安心して生活できる環境にあります。ライフケアホーム読谷では、利用者様との日々の関わりの中で、表情や言動、仕草などの様々な観点から利用者様のちょっとした変化に気づけるよう支援し、変化に気づいた時はスタッフ間で情報の共有、意見交換を行い、必要に応じて医療との連携を行う事で様々な状況や状態変化への対応、対策が出来るよう努めています。又、ご家族様との関係が途切れる事がないよう、感染対策を行いながらの面会実施や、利用者様の日頃の様子をお伝えする事でご家族様の安心感や信頼関係を築けるよう努め、利用者様の楽しみや要望に添うことができるよう、ご家族様の協力も得ながら、外出支援や買い物等の支援を実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は住宅街の中にあり、地域と溶け込むように建っている。海に近い場所で潮の香りがし、白い花ブロックを多用した外観は、南国のリゾート地を思わせるつくりである。同敷地内には小規模多機能やデイサービス、クリニックがあることから法人内での利用者同士の交流、必要時の医療連携ができる等医療法人という強みを活かしている。年に2回、代表者と面談の機会を設け、職員の声や意見を聞き、運営に反映できるよう努めている。各マニュアルの整備がしっかりとされており、災害、感染症に関するBCPの作成が行われ、内容についてもわかりやすい作りになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者やご家族、来所された方の目が留まる場所(フロア、出入り口)へ掲示している。又、職員がいつでも確認できる環境を整え、日々の実践へ繋げている。	入り口に理念の掲示があり、いつでも確認することができる。理念は昨年、職員と話し合っ作り替え、思いが込められ、日常のケアの中に活かされ浸透している。管理者は、理念に立ち戻ることができるように職員に日々声かけを行い、「利用者の思いを最大限尊重する」ことを念頭に、介護計画へ反映させ基本方針に沿った支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して、地域の方との繋がりを持ち、介護に関して困っている方がいないか？又、事業所として何か出来る事がないか？等、情報を相互に提供しながら交流し、今年度は敬老会にて、数年ぶりに青年会ボランティアによる演舞を実演してもらった。	3年ぶりに敬老会を開催し、利用者は久しぶりに青年会ボランティアの演舞を生で鑑賞し、喜びの笑顔を見せていた。また、地域の方が事業所を訪れて野菜を頂いたり、交流することも増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実際にあった認知症の方への支援方法を、運営推進会議や介護講習会の中で事例として取り上げながら情報発信する事で、地域の方に認知症の人への理解や支援方法へ活かす事ができる取り組みを行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、利用者の情報や取り組んでいる支援等を公表し、構成員の方からの評価を受け支援方法の改善やサービスの向上に繋げていけるよう努めている。	定期的な運営推進会議が開催され、議事録が確認できた。運営推進会議の議事録と外部評価結果を来所者が閲覧できるように入り口の棚に備えている。令和5年4月の外部評価で課題であった運営推進会議における管理者の内容把握が未達であるため再度実施が望まれる。	管理者主体での運営推進会議の開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々の利用者への支援の中で、必要時には村役場の担当者と連絡が取れるような協力関係を築いている。又、運営推進会議への参加依頼も行き、会議の中で事業所の実情やサービスの取り組みを伝え、アドバイスを受けながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議の構成員でもある市の担当者へは運営や現場実情を伝え、日頃から協力関係を築いている。8月の大型台風においては3日間の停電から水の使用ができなくなったが、役場からの支援物資により乗り越えることができた。また介護の日イベントとして、同敷地内のデイサービスと共同で作品をつくり、読谷村役場へ提出や作品の見学を行った。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修や勉強会を通して、身体拘束に対しての具体的な知識を深めている。又、日々の利用者との関わりの中で状態変化の把握に努め、身体拘束が必要となる前に職員間でミーティングを行い、身体拘束を行わないケアが実施出来るように取り組んでいる。	身体拘束等の適正化のための指針と適正化のための対策を検討する委員会の開催が記録にて確認できた。事業所は、入所前に家族へ説明を行っている。ミーティングにおいてグループワークを行い、スピーチロックやセンサーの使用についてもリスクを話し合い、情報共有し身体拘束を行わないケアの実施を行っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の研修会への参加や情報収集に努め、事業所内で勉強会を開催し学ぶ機会を作っている。又、事業所内における虐待が見過ごされない様、入浴等での全身の状態観察や日々の支援の中で虐待が行われていないかの確認を行っている。	高齢者虐待防止に関する研修会への参加と事業所内の勉強会の実施が記録されている。参加できなかった職員には後日内容把握ができるように記録と研修資料を配布する等、全ての職員への周知を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護や成年後見制度を活用している利用者はいないが、いつでも活用できるよう、研修への参加や情報の収集に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、医療連携体制指針等の説明を十分に行っている。特に、退所条件や利用料、医療連携、起こりうるリスク等、詳しく説明した上で同意を得るよう心掛けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて外部の方が参加している場や、サービス担当者会議等の開催時に利用者やご家族からの意見や要望を受けている。又、事業所出入りに意見箱を設置していただいた意見等を職員間で共有し、運営に反映するよう努めている。	運営に関する内容として、家族からの希望は面会に関するものが多く、現在は制限をしておらず面会室を使用した面会を行っている。また、外出や一時帰宅などの希望についても、法事や日帰りの外出などの対応をしている。利用者からは外出の希望が多く、道の駅や公園、本人自宅付近までドライブへ行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	当法人提供のビジネスチャットの開設や定期的な会議や職員ミーティングを開催し、職員の意見や疑問点などを聞く機会を設け、運営に反映させるよう努めている。又、代表者による年2回(前期、後期)の個人面談も実施している。	事業所での小口予算があり、その金額を超える場合は相談を行っている。通常は消耗品や誕生日のケーキを購入をしている。最近ではテレビが故障してしまったことからテレビの購入を行った。業務連絡や情報共有にビジネスチャットを使用し、法人からの事務連絡、職員間の情報共有を図っている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者による、年2回(前期、後期)の職員個人面談を実施している。その中で職員評価を行い、賞与への反映を実施する事で、日々の努力や職員のやる気、向上心、スキルアップへ繋げる事が出来ている。又、職員の悩みや意見等も聞き入れる事で、職員が安心して働ける職場環境が実現できるよう努めている。	職員の希望休は、気兼ねなくとれるような職場環境・条件整備を行っている。職員のスキルアップの支援や資格取得後には昇給をされる等、就業環境の整備に努めている。また、年2回、代表者による個人面談を行い、職員の希望や現状の気持ちを直接聞くことで職員の働きやすい環境を作ろうと努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人に適した研修を薦めている。法人内での研修や資格取得の際は勤務調整を行い対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム協会へ加入し、連絡会や研修等で加盟事業所や県内の同業者と交流できる機会を作り、サービスの向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前のアセスメントやサービス担当者会議で、利用者の思いや要望に耳を傾け、利用者が安心して過ごせるように信頼関係を築いている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前のアセスメントやサービス担当者会議で、計画作成担当者、管理者が主となり、ご家族の要望や思いに耳を傾け、良好な関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族が必要としている支援を提供できるよう、サービス導入前のアセスメント時に聞き取りを行い、グループホーム入所以外の他サービス利用を含めた情報を提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームでの生活の中で、利用者個人個人が出来る事を見極め、役割を持ちながら共に生活できる関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の中で、ご家族の協力を得られる事は協力して頂きながら支援を行っている。又、新型コロナ等の感染状況や感染対策・ルールを設け、積極的な面会の実施を行っている。又、1年の行事を通しての外泊や外出等への声掛けも行い、本人と家族の関係が途切れないような支援を行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ感染症が5類になった事を踏まえ、状況を見ながらではあるが、地域や同敷地内にあるデイサービスや小規模多機能での交流を少しずつ増やしている。又、感染対策を行いながら面会の実施、交流の機会の維持に努めている。	同敷地内にあるデイサービスを利用されている方と同じ地域に住んでいたことから交流を楽しまれている。また、少数ではあるが近所の方が訪ねてきて世間話をするなど少しずつ交流ができるように努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良い関係作りが出来るよう、利用者同士の関係を把握し、席の配置を考慮したり、個々の居場所作りを大事にしながら、利用者同士が関わり合い、支えあえる雰囲気作りを行い支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後でも、良好な関係が維持できるよう、必要に応じて連絡を取りながら相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いや希望を引き出せるよう努めているが、認知症によって本人の思いを引き出せない場合はご家族へ確認し、本人本位の支援が提供できるよう努めている。	アセスメントや個別記録に、利用者のやりたい事や意向が記載され、日々の会話のなかで利用者の好きなことや好きな活動の把握に努めている。また、意向がわかりづらい場合は面会時に家族へ確認する等の工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前のアセスメントシートや、基本情報等で情報の把握を行っている。又、ご本人やご家族とのコミュニケーションの中で得た情報を職員間で共有、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人ひとりが、申し送りノートや介護記録を活用し、日々の利用者の状態把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が利用者の日々の様子を観察し、朝の申し送りやミーティングを通して情報の共有を行っている。又、サービス担当者会議等で意見を出し合い、ご本人が安心してより良く暮らせる介護計画の作成に努めている。	日頃からケアを行う際や活動を通して、職員や利用者から事前に情報収集を行い、担当者会議を経て介護計画を作成している。利用者の状態変化や意向が変わった際には変更も行っている。また、モニタリングは3か月に1回を基本としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者との日々の関わりの中で得た気づきや情報を、個人記録に記載し職員間で共有できるよう努め、定期的なモニタリング実施を通して、その時々々の状況に応じた介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族へ寄り添う事で、日々の状況に応じた柔軟な支援やサービスが出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族との関わりや運営推進会議を通して地域資源の把握に努め、利用者が楽しみを持った暮らしができる支援が提供できるよう努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要と判断した際は、ご本人、ご家族の希望を確認し行っている。又、かかりつけ医への情報が的確に伝わるよう、経過をまとめた記録を作成し、適切な医療が受けられるよう支援している。	入居者のかかりつけ医は、経営主体である医療法人のクリニックが担当している。医療と介護両方を提供できることが特色であり、入居時には家族・利用者に説明し同意を得て必要に応じてかかりつけ医の変更を行っている。かかりつけ医で対応できない専門外来受診時には、家族の付き添いで対応している。その際の情報共有については文書を作成し提供している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化に気付けるよう、日々の状態観察に努め、体調の変化があった際は日中、夜間問わず、医師又は看護師へ相談出来る体制を整えています。又、受診が必要な際は、ご家族へ連絡し適切な受診ができるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入退院する際は、計画作成担当者が主となり主治医のいる診療所や地域連携室、入退院調整室等の病院関係者との連絡や意見交換等が密に行えるような関係づくりを行っています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合における事業所の方針をご家族もしくは保証人の方へ説明しています。又、必要に応じて、医師、看護師、隣接の小規模多機能事業所等を含めたチームでの支援に取り組んでいます。	「重度化した場合における対応に関する指針」が作成されており、入居時に家族利用者に説明し、同意を得ている。看取りについては、法人全体で支援する体制を整備している。必要に応じて、有料老人ホームや小規模多機能に移動し看取りを行っている。介護支援専門員を中心に利用者の状況に応じたカンファレンスを設けて個々に応じた対応を行っている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の緊急時には、医師又は看護師へのオンコールを24時間体制で行っています。職員へは緊急時マニュアルを作成し、勉強会の開催や直接指導を行っています。	急変時や事故発生時の対応については、法人内で対応している。医師や看護師が24時間対応する等、医療法人のメリットを活用した支援を行っている。医療体制に応じた緊急時対応マニュアルが整備され、職員は勉強会や研修会で理解を深めている。応急対応や初期対応については、看護師が定期的に指導している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的を実施している。	地域消防へ相談し、消防設備点検日に合わせて消防訓練を実施した。その際に起こった課題等を昼夜を想定した協議を行い、職員間での情報共有を図った。又、災害や感染時における業務継続計画(BCP)を作成し、職員間で共有した。	防災訓練については、11月29日に昼間対応の訓練を法人全体で実施した。今年度は8月の台風により3日間の停電を経験した。火災想定訓練ではあったが、停電時の備えや対応について検討した。夜間想定訓練については、2月に実施予定で計画している。管理者は、BCPの作成に関する法人内研修を受講し策定に着手している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが意識して行えるよう、接遇マナーや権利擁護に関する研修、勉強会を実施し、日々の支援の中で実践できるよう対応している。又、定期的なミーティングで問題提起、解決ができるよう努めている。	「プライバシー保護マニュアル」が策定されており、人権・人格保護の留意点として、基本的事項・居室の配置・日常の対応・入浴、排泄時の対応と項目をあげて記載し、職員への周知を図っている。特に入浴・排泄介助については、プライバシーを確保した支援について、ミーティングや勉強会で話し合いを重ね、より良い支援を目指している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表し、自己決定できる関係作りができるよう、日頃からの声掛けや関わりを大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に添える事が出来るよう、その日の業務の見直しや、職員の体制を整えて対応できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新型コロナ等の感染対策の観点から、散髪ボランティアや美容院への対応は控えているが、心得の有るスタッフにて散髪の実施や、日々の髪型(三つ編み等)を利用者の希望に沿って行えるよう支援している。又、誕生日等にて、クシやヘアゴム・シュシュなどをプレゼントし、おしゃれの幅を増やすなど支援している。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の配食サービスを利用。旬の食べ物やおいしい食事が提供できるよう、配食サービス会社と連携をとっている。又、利用者の嗜好品をご家族へ依頼したり、買い物支援で購入するなど対応を行っている。食事の準備や片付けに関しては、利用者の日々の体調を見ながら出来る範囲で行って頂いています。	食事は、法人内の配食サービスを活用して提供している。利用者個々の嗜好や食事形態等についての情報を配食サービスに提供し可能な範囲での対応を行っている。毎月実施している誕生会では、誕生ケーキを利用者と協働作業で作成している。畑で収穫した野菜を使っておやつ作りを行っている。作業の過程で個々の利用者の状況に応じ参加を促している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量や水分摂取量を記録している。食事や水分摂取量の低下が見られた際は看護師へ報告、相談を行い、好きな飲食物を提供したり、必要に応じて医師へ相談し、エンシュアリキッド等の栄養補助食品の指示を受け提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯間ブラシや舌ブラシ、マウスウォッシュの使用など、一人ひとりの口腔状態に応じた口腔ケアを実施している。又、定期的な訪問歯科での口腔チェックを取り入れている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を残し、排泄パターンが把握できるよう努めている。食事前後の声かけや、利用者の行動等を観察し、トイレ誘導や声かけを行いながら、トイレでの排泄ができる支援を行っている。	排泄は、自立している方は1名で、8名の方はおむつを使用している。排泄表を工夫し、利用者個々の排泄時間・回数・状態に加えて、バイタル、食事摂取の状況、服薬状況も記載できるように工夫し、利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声掛けを行う支援をしている。プライバシー保護に留意した排泄介助マニュアルが策定され、日々の介助に活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト等の乳製品やオリゴ糖、ヤクルト、お芋などの便通により飲食物を提供したり、軽体操や散歩などの運動を促し、便秘予防に努めている。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介護計画に基づいた入浴支援を行っている。体調不良や入浴拒否があった際や、ご本人の希望等への対応は時間や計画にとらわれず臨機応変に対応している。入浴中はご本人の好みの音楽を流したりする等、入浴を楽しめる環境作りにも努めている。	基本的には、週に2回の入浴支援を行っている。入浴介助マニュアルには、入浴の目的が記載され、清潔保持とリラックス効果が明記されている。手順書には、場面ごとの適切な声掛けについても記載されている。シャンプー等の消耗品は、基本的に事業所で用意している。皮膚トラブル等で、特定のシャンプーを使用する利用者については、家族に購入を依頼している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方にあった生活習慣を把握し支援している。ご本人に無理のないよう、午睡時間を設けたり、夜間の不眠が生じないよう、日中の活動に軽体操や散歩等の活動を取り入れて支援している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導の下、薬剤師の管理、指導を受けている。又、服薬マニュアルや薬事情報を保管し、職員がいつでも閲覧できるようにし、安全な服薬支援が提供できるように努めている。	服薬支援は、「服薬支援マニュアル」が策定されている。マニュアルには、セッティングから終了後までを手順化したフローチャートが記載されており、可視化され職員の理解を深める工夫を行っている。ダブルチェック体制も整備している。利用者の投薬情報は、服薬管理マニュアルが作成されており、変更時に記載し状況の変化について職員で共有する体制を整備している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	介護計画に基づいて、ご本人様の余暇活動を日課に取り入れている。洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の準備、片付け、テーブル拭きや掃除等、日々の生活の中で出来る事を見つけ、役割や気分転換等の支援を行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症や利用者の体調を見ながら、利用者からの希望や要望に添い、職員付き添いの下、ドライブや散歩、自宅への外出支援を行っています。又、ご家族と一緒に外出される方もいます。	外出支援については、月に3回程度ドライブ支援を行っている。法人内の大型ワゴン車を借用し、利用者を2グループに分けて外出している。外出先は、道の駅での買い物や公園での散歩等、利用者の意向を確認して実施している。屋外での散歩を希望する方には、職員が同行して、敷地内を散策している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が欲しい物、必要な物はないか確認したり、日々の会話の中から聞き出し、必要に応じてご家族へ連絡、相談を行い、職員と一緒に買い物へ出かける機会を設けたり、状況に応じて職員が代理で買い物をしています。又、販売機での飲み物の購入に関してはその都度対応を行っています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が、ご家族や友人等と連絡が取りたいなど、必要な時にいつでも連絡が取れるように支援しています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間へは、季節感を採り入れながらも、利用者が混乱を招くような物を設置しないようにするなどの配慮を行っています。又、利用者がそれぞれの空間を認識できるようにし、シンプルで居心地よく過ごせる環境作りに努めています。	白い花ブロックを多用した外観は、南国のリゾートを思わせる作りである。花ブロックと建物の間には、ウッドデッキを設けており、半戸外として活用している。共有空間であるリビングには、季節に応じた制作物で装飾している。職員は輪番制で担当し、季節に応じた利用者が参加できる制作物を検討し居心地の良い空間づくりを演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間内にソファやテーブル席などを広く設置することで、利用者一人ひとりが思い思いに過ごせるような工夫をしています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族へ、自宅から馴染みの物品等を自由に持ち込める事を伝え、利用者が自宅と同様に居心地よく過ごして頂ける環境が提供できるように支援している。テレビや本、タンスやドレッサー等の持ち込みがある。	居室には、クーラー・カーテン・ベッド・整理ダンス・テレビのジャックが備え付けられている。ジャックがついているため、5名の方はテレビを居室内に置いて視聴している。自宅で使用していたタンスやドレッサー等を持参し写真や小物、本等を配置し、利用者個々の嗜好に合わせ、利用者家族と相談して居室内の環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、利用者が自力で移動しても安全なバリアフリーと広さを確保している。日々、危険な箇所がないかの確認も行い、事故発生防止に努めている。又、利用者が自立した生活が送れるよう、洗濯物干し場など、わかりやすい場所に設置している。		